

平成30年度

事業報告書



南房総市社協マスコットキャラクター「みなみん」



社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

目 次

〇はじめに	3
1 地域福祉の推進	
(1)地域福祉ネットワーク事業	
① 地区社会福祉協議会とささえあいネットワーク南房総の取り組み	7
(2)地域生活支援事業	
① 敬老事業	10
② 福祉団体支援	11
③ 福祉施設の運営(公益事業)	11
④ 法律相談事業	12
⑤ 応急援護資金交付事業	13
⑥ ひとり親家庭支援事業	13
(3)広報啓発事業	
① 広報啓発	14
② 社会福祉大会	14
(4)福祉活動支援事業	
① 福祉教育の推進	16
② 子育て活動支援	17
2 高齢者の在宅生活の支援	
(1)在宅福祉支援事業	
① お達者サロン支援事業	17
② ふれあいランチサービス事業	17
③ 紙おむつ給付事業	18
④ 交通空白地有償運送(旧過疎地有償運送)	19
⑤ 生活援助サービス(みなみん・おたすけサービス)	20
⑥ 福祉車両・福祉機器貸出事業	20
⑦ 日常生活自立支援事業	21
⑧ 生活困窮者自立相談支援事業	22
⑨ 福祉機器リサイクル事業	22
3 在宅生活を支援する資金の貸付	
(1)資金貸付事業	
① 福祉資金貸付事業	23
② 生活福祉資金・老障資金貸付事業	23
4 ボランティア活動の支援	
(1)ボランティア活動支援事業	
① ボランティア連絡協議会の運営	23
② ボランティア・市民センターの整備	24
③ ボランティア養成講座	24

④ 災害ボランティア活動	25
⑤ ボランティア助成事業	25
5 共同募金運動の推進	
(1)共同募金事業	
① 赤い羽根共同募金運動	26
② 歳末たすけあい運動	27
③ 災害義援金募集	28
6 居宅介護の支援	
(1)介護保険事業	
① 居宅介護支援事業	29
② 訪問介護事業	29
(2)障害福祉サービス事業	
①居宅介護事業	29
(3)介護保険外事業	
① 高齢者外出支援事業	30
7 社会福祉協議会の活動基盤整備	
① 会員募集の状況	30
② 基金積立額	30
③ 地域福祉計画・地域福祉活動計画	31
③ 理事会・評議員会の実施状況	32

平成30年度 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会事業報告

〇はじめに

「南房総市に住む誰もがその人らしく安心して暮らすことのできる地域社会の実現」を目指し、地域の方々や関係機関・福祉関係団体との協働により平成30年度の事業を実施した。

特に重点施策としては、高齢者世帯の増加に伴う社会的孤立、介護、生活困窮など様々な生活福祉課題を解決するため、市からの受託事業である要支援者を地域で包括的にささえる高齢者生活支援体制整備事業である「ささえあいネットワーク南房総」(協議体)を地域住民と協働し推進した。

ささえあいネットワーク南房総では、生活支援コーディネーターを中心に「住民主体のささえあいの仕組みづくり」が更に進められ、地域課題やニーズ解決へ向けた取り組みが図られた。

また、県社協受託事業の「日常生活自立支援事業」や市受託事業である「生活困窮者自立支援事業」を更に充実させ、各福祉関係者と社協のネットワークを生かしながら、より専門性のある個別支援の取り組みを強化した。

さらに、従来からの課題であった行政計画である「地域福祉計画」と、社会福祉協議会が中心となり策定する、民間の福祉活動・行動計画でもある「地域福祉活動計画」の策定に着手し、市とともに、まずは計画策定の基盤となる地域の福祉ニーズや福祉課題の把握に努めた。

また法人運営に関しては、更なる地域福祉の推進を図るためにガバナンスの強化を徹底し、社協としての役割を明確にし、将来を見据えた組織の体制整備に努めた。

平成30年度の主な活動状況を、次のとおり報告する。

〇平成30年度の主な事業活動の概要

(1) 地域福祉の推進

地域にある様々な課題を取り上げ協議し解決を図るため、地域のあらゆる人々が福祉の担い手となり、それぞれの地域の特性を活かした住民相互によるたすけあい活動を支援するささえあいネットワーク南房総(協議体)では、今年度も引き続き地区の生活支援コーディネーターとともに、福祉課題である「外出支援」「買い物支援」「見守り活動」「介護予防体操の普及」「つどい場づくり」など解決に向けた住民主体のささえあい活動が更に進み、大きな成果が得られた。また、それら各地区の取り組みや地域課題について、市が推進する第1層協議体や高齢者生活支援体制整備事業の位置づけでもある、地域包括ケア推進会議やチームケアチーム会議で更に検討され、市域での協議が進められた。

相談事業では、今年度も専門的な相談支援機能の強化を図るため、引き続き弁護士・司法書士による無料法律相談を毎月開催し、身近な地域で専門相談ができる支援に努めた。

広報啓発事業では、広報紙「てんだあ」の発行と併せ、「ホームページ」や SNS サービスの「ツイッター」「フェイスブック」などインターネットを利用し、リアルタイムの情報と親しみやすくなりやすい福祉情報の提供に努めた。

また社会福祉大会では、福祉功労者の功労を讃えるとともに、社協の福祉活動の方針を

位置付ける大会とし、多くの関係者が集う大会とした。今年度は、例年ボランティアまつりと同時開催をしていたが、大会のみの開催とし多くの方々に参加をいただいた。

また、今年度新たに子育てをしている世帯への支援として、ひとり親家庭支援事業の取り組みをスタートした。

(2) 高齢者等の日常生活の支援

閉じこもりを予防し、より身近な地域で集い交流する場を更に広げるため、今年度も引き続きお達者サロンの支援を行った。お達者サロンでは、住民相互に「見守り」「交流」「介護予防体操の普及」などが行われ、地域住民だけではなく専門職も加わり、ささえあい活動や交流の拠点として充実が図られ、大きな成果を得た。

高齢者や障がい者の移動困難者を対象とした「交通空白地有償運送」では、ボランティアやホームヘルパーが通院や買い物等の送迎をし、住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう支援した。本事業は、ますます高齢化や過疎化が進む南房総市においては重要なサービスとなっており、運転協力者への安全運転者講習を実施し、安全で安心したサービスの提供に努めた。

また住民相互のささえあい活動として、地域のサポーター（協力者）の協力による、高齢者や障がい者に対する、生活上の軽易な家事援助を中心とした有償の生活援助サービス「みなみんおたすけサービス」を継続して実施した。周知不足もあり利用者が増えないという課題が残った事業ではある。引き続き充実を図っていく。

預金管理や福祉情報を提供し判断能力の低下した高齢者や障がい者の在宅生活を支援する「日常生活自立支援事業」は、市民後見人養成講座を受講された方々に生活支援員として登録していただき、生活支援員の増員を図り体制整備に努めた。近年では、「成年後見制度」や「精神障がい者などの対応」など専門分野の支援も必要となっており、その点を考慮し専門員と生活支援員、また専門職の方々とチームで支援ができるようケース会議や協議をしながらより良い支援に努めた。

また、生計困難者の自立生活へ向けた支援として「生活困窮者自立支援事業」を今年度も引き続き専門の職員を配置し、相談者に寄り添いながら自立して安定した生活が送れるよう支援した。現在では、生活保護になる手前のセーフティーネットとして重要な位置づけとなっている。近年複雑・困難ケースの相談が増加している傾向もあり、日常生活自立支援事業と同様に他の専門機関と連携を図り、より総合的な支援ができるよう努めた。

(3) 在宅生活を支援する資金の貸付

低所得世帯の経済的な自立を促し、地域社会で安定した生活の確保を図ることを目的に今年度も資金の貸付を行った。生活困窮者自立支援や日常生活自立支援を実施する中で、福祉資金の貸付は支援を必要とする世帯への自立した生活への糸口となる重要なサービスとなった。貸付にあたっては、行政や地域の民生児童委員、県社協と連携のうえ貸付世帯が自立できるよう適切な貸付にあたった。

本事業では、単なる貸付だけではなく、個別の生活支援という観点からも支援が求められ、

他の生活支援サービスと併せ自立に向けた総合的な支援ができるよう取り組んだ。

(4) ボランティア活動の支援

ボランティア活動の環境の更なる充実を図るため、引き続きボランティアの登録・あっせん、養成講習及びボランティア保険の加入等を行うとともに、ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティア活動の運営・調整の充実に努めた。

ボランティア活動は、地域福祉を支える大きな力となっていることから、今年度も「生活支援担い手養成講座」を開催し、担い手となるボランティア養成に努めるとともに、これからを担う子ども達へ福祉教育の推進を図り、「福祉体験講座」や「ボランティアスクール」「災害ボランティア養成講座」を行い、若年層のボランティア養成にも努めた。

また、今年度も大規模災害に備えて災害ボランティアとともに、災害マニュアル検証と併せて訓練を実施し、災害時に災害ボランティアセンターが運営できるよう努めた。

(5) 共同募金運動の推進

今年度も地域福祉活動の推進を目指し、全国一斉に行われた共同募金運動は、地域の方々のご理解・ご協力のもと活動が展開された。歳末たすけあい運動では、市内の中学生や民生委員も街頭募金に参加し、活動の輪が広がった。寄せられた募金は配分委員会で地域住民のニーズに反映されるよう、配分方法を検討し、地域福祉事業に活用するとともに要支援者世帯や福祉施設へ配分した。

福祉活動の資金確保が年々厳しくなる現状の中で、地域の皆様から寄せられた募金は、地域福祉活動を進めるための有用な資金となっており、募金活動への理解を図るため、チラシを配布し、どのように募金が有効活用されているか周知した。

(6) 居宅介護の支援

介護保険制度の改正に伴い、本会が実施する居宅介護の支援については、非常に運営が厳しい状況にあるが、今年度も他の事業所が多く実施しない「外出支援サービス」や「障がい者への居宅介護」、また「困難ケースへのサービス」を主体に取り組みを行った。また、単なる介護の支援ではなく社協らしいサービス提供に努め、利用者に寄り添いながら自立した在宅生活が送れるよう実施した。

(7) 社会福祉協議会の活動基盤整備

社協事業を効果的に実施するため民間法人としての自主性・創造性を発揮しボランティアや福祉諸団体と連携、協働し活動の基盤整備に努めた。

昨年同様、本会の運営資金は市に依存せざるを得ない状況に変わりはないが、市においてもその財政は年々厳しさを増しており、今年度も自己資金等を活用し、市からの補助金を極力減らすことに努めた。

また、社会福祉法人として経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、財務規律の強化などに努めた。

さらに行政計画である「地域福祉計画」と調和をもった、本会が中心となり策定する、民間の活動計画・行動計画でもある「地域福祉活動計画」策定に着手した。策定にあたり、基盤となる地域住民へのアンケートやヒアリング、意見交換会などを主に行った。次年度へ向け住民や当該団体の声が反映される計画づくりを進めていく。

これまでも、理事会、評議員会等で事業運営方針や各センターの在り方について検討してきたが、今年度は運営検討会議を設け、限られた職員体制の中でいかに効率良い組織運営を行うか検討され、今後社協を運営する上で重要な方向性を確認した。

以上のように、平成 30 年度においても、住民の方々と協働を主体とした活動に併せ、専門性を備えた民間の社会福祉団体として、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすことのできる「福祉のまちづくり」を目指した福祉活動を広く実施した。

1 地域福祉の推進

(1)地域福祉ネットワーク事業

①地区社会福祉協議会とささえあいネットワーク南房総の取り組み

助け合い、支え合いの精神のもと市内 16 の地区社協で交流会や会食会を通し、地域支援活動が実施された。そして地区社協の連携を図るため今年度も連絡会議を開催し、各地区の事業について発表し、情報交換や地区社協相互の連絡調整、地域福祉の推進について活動方針が検討された。

また、高齢者の生活支援体制整備事業として市内7地区に配置した「ささえあいネットワーク南房総」(協議体)においては3年目を迎え、生活支援コーディネーターを中心に、地域の福祉課題を協議し、課題を解決するための取り組みが進められた。

★地区社会福祉協議会の活動内容 事業費:2,843,156 円

No	地区社協名	活 動 内 容
1	富浦地区社会福祉協議会	学校・民生委員等と合同会議を開催、研修会を開催、また、いちご狩りやいきいきサロンを開催し交流を図った。
2	八束地区社会福祉協議会	学校・民生委員等と合同会議を開催、研修会を開催、健康教室などのいきいきサロンを開催し交流を図った。また、友愛訪問活動を実施、安否確認を行った。
3	岩井地区社会福祉協議会	地区別(7地区)サロン及び全体の会食会や独居高齢者日帰り旅行を開催、交流を通して介護予防の活動を行った。また、新たに美化活動に取り組んだ。
4	平群地区社会福祉協議会	地区別でいきいきサロンの開催、地域の神社清掃、美化活動、高齢者日帰り旅行などを実施。また、地区全体でフォーラムを開催し、地域住民との交流を図った。
5	滝田地区社会福祉協議会	いきいきサロンの開催やボランティアと連携し、餅つき大会を実施し、地域住民との交流を図った。サロンでは健康教室や防犯学習会を実施した。独居高齢者友愛訪問活動を行い、地区の安否確認を行った。
6	国府地区社会福祉協議会	いきいきサロンの開催やボランティアと連携し、餅つき大会を実施し、地域住民との交流を図った。サロンでは健康教室や防犯学習会を実施した。独居高齢者友愛訪問活動を行い、地区の安否確認を行った。
7	稲都地区社会福祉協議会	いきいきサロンやふれあい交流会を開催、またボランティアと連携し、餅つき大会を実施し、地域住民との交流を図った。軽スポーツを行い介護予防に取り組んだ。ハザードマップを修正、独居高齢者友愛訪問を実施し、安否確認を行った。

8	白浜地区社会福祉協議会	地域別高齢者のつどい、二世世代交流グラウンドゴルフ、家庭介護教室を開催し、地域住民との交流を図った。広報誌を発行し、地域の方々へ広く活動を周知した。
9	長尾地区社会福祉協議会	地区別高齢者のつどい、二世世代交流グラウンドゴルフ、家庭介護教室を開催し、地域住民との交流を図った。防災講習を実施した。
10	千倉地区社会福祉協議会	「高齢者ふれあいの日」を年3回開催し、千倉小や幼稚園の児童と交流を図った。ほっとらいふ千倉と協働し取り組んでいる「見守り活動」について、活動を実施している先進地社協への研修を行った。
11	丸 地区社会福祉協議会	地区サロンやいきいき交流会を開催し、地区住民の交流を図った。高齢者へ向けた副食づくりを実施、またボランティアと協力し環境美化活動・歳末たすけあいのしもち配布事業を実施した。友愛訪問活動を実施した。
12	南 地区社会福祉協議会	地区サロンやいきいき交流会、会食会・音楽会を開催し、地区住民の交流を図った。ボランティアと協力し環境美化活動・歳末たすけあいのしもち配布事業を実施した。
13	南三原地区社会福祉協議会	ふれあい会食会を開催し、高齢者・幼稚園園児・小学校児童との交流を図った。高齢者日帰り旅行、福祉まつりを実施し、地区住民同士交流を図った。広報誌を発行し、地域の方々へ広く活動を紹介した。
14	上三原地区社会福祉協議会	くすの木を拠点に定例サロンを開催した。また、ふれあい会食会、高齢者日帰り旅行、福祉まつりを実施し、地域住民同士の交流を図った。
15	北三原地区社会福祉協議会	ふれあいサロン、高齢者の会食会や日帰り旅行を開催、福祉まつりを実施し、地域住民同士の交流を図った。花いっぱい事業として環境美化活動を実施した。
16	和田地区社会福祉協議会	高齢者のふれあい会を開催し、小学校児童との交流を図った。また高齢者日帰り旅行を開催した。緊急情報カプセル等のパンフレット配布し安否確認を行った。福祉まつりを実施し、地区住民の交流を図った。

★ささえあいネットワーク南房総(協議体と生活支援コーディネーター)の取り組み(市受託)

事業費:5,200,000 円

No	協議体名	活 動 内 容
1	こらぼ♡富浦	○富浦地区高齢者を対象とした買い物支援バスの運行について協議 ※特別養護老人ホームの送迎者と運転手の協力で試験運転実

		<p>施中</p> <p>○高齢者の集い場やシニアクラブの会員増員や新設について協議</p> <p>○今後は地域の見守りについても協議を進める</p>
2	アットホームとみやま	<p>○身近な場所で歩いて行けるサロンを広げるための協議</p> <p>富山地区の住民の方へサロン活動の理解を深めていただき、協力していただくサポーターの増員と移動についても協議を進めている</p> <p>○今後はサロンを通じて介護予防の取り組みや安否確認を実施していく</p>
3	よりどころみよし	<p>○サロンやラジオ体操などの活動を通して見守りの拠点を充実させ、身近で安心感や癒しを得られる場を作っていくことを目指し取り組み中</p> <p>○三芳地区内の多機関との連携がきてきたので更に拡充し、専門職、住民、分野を超え一緒に住みよい地域づくりの活動を進める</p>
4	やあばっしえ白浜	<p>○居場所づくりとしてサロンを立上げ運営、併せて出張サロンを実施中</p> <p>○白浜地区内で身近な場所で相談できる「福祉相談会」を開設 ※曲げダンププロジェクトと連携し、地区内のごみ収集所 98 か所へ看板を設置</p> <p>○今後は移動の問題や地域の見守りについて協議していく</p>
5	ほっとらいふ千倉	<p>○地域が地域をささえる見守りについて協議をすすめ、見守り活動として「お元気ですか♥ちくら」の取り組みを始めた</p> <p>○見守り活動が定着し、更に千倉地区にその取り組みが広がるように住民同士の情報共有を図った、また今後も更に進めていく</p>
6	おたがいさまネットワークまるやま	<p>○移動について丸山地区の現状を把握し地域住民同士で共有した</p> <p>○救急医療情報カプセルの配布や更新を通して、丸山地区の住民同士が顔と顔の見える関係づくりに取り組んだ</p> <p>○今後も住民同士のささえあいについて、更に進めていく</p>
7	わだいき	<p>○地域にある商店など区長や民生委員の協力のもと地域資源を確認</p> <p>商店などが減少しているので地元のバス会社やサロンサポーターの協力で、買い物支援バスを運行した</p> <p>○見守りを進めるため救急医療情報カプセルや緊急通報システムを周知した</p>
8	ささえあいネットワーク 南房総(本所)	<p>○全地区の協議体で課題となっていることについて協議</p> <p>①移動の問題 ②担い手を増やす ③見守りについて</p> <p>○上記内容を市の協議体(第1層)へ報告し更に協議した</p> <p>富浦のモデルを参考に移動について協議を進めていくこととなった</p>

【事業評価】

地区社協活動では、平成 29 年度から事業に合わせた助成金を交付することとなり、2 年目を迎えた。各地区では、新たな事業として地区社協を主体とした小規模なサロンを実施するなど、工夫が見られた。地区社会福祉協議会連絡会では、現状の地区社協の課題である役員や委員のなり

手不足や学校の統廃合による地域交流の在り方、また今後の地区社協の体制について、意見交換が行われた。今後も改善が図れるよう継続して協議することとした。

また、ささえあいネットワーク南房総(協議体)は3年目を迎え、各地区では地域のニーズや課題について協議が進められ、その解決への取り組みが進められた。地区の課題では、外出支援、買い物支援、見守り活動、介護予防体操の普及や居場所づくりといった内容が進められている。

平成30年度は、第2層圏域であるささえあいネットワーク南房総の各地区で課題となった内容について、第1層協議体(市域での協議)に提案し、検討された。特にどの地区でも1番の課題となっている「外出支援」について協議された。また、市が実施している地域ケアチーム会議や地域包括ケア推進会議にも提案し更に協議が進められた。

(2)地域生活支援事業

①敬老事業

(1)結婚50周年祝賀事業 事業費:639,568円

結婚50周年をお迎えのご夫婦に敬意と祝意を表し、記念品贈呈式を開催した。贈呈式には66名の出席があり、夫婦とも健康で仲睦まじく過ごせた歳月を振り、振り返り和やかに過ごしていただいた。

(対象:昭和43年9月1日～昭和44年8月31日の間に結婚され市内にお住まいのご夫婦)

開催日	内 容	開催場所	希望対象 ご夫婦
10月26日	・記念品贈呈(記念写真・夫婦茶碗) 50周年を振り返って(2夫婦発表) アトラクションお祝いに寄せての舞踊	千倉保健センター	55組

(2)高齢者肖像画贈呈事業 事業費:1,337,869円

長寿をお祝いし、市内最高齢者21名に肖像画を贈呈した。

(大正7年4月2日～大正8年4月1日までに生まれた方)

★地区別贈呈数

地区名	対象該当数
富 浦	2名
富 山	1名
三 芳	4名
白 浜	4名
千 倉	5名
丸 山	2名
和 田	3名
合 計	21名

【事業評価】

結婚50周年祝賀事業は、昨年度までの課題であった参加数の増加に伴う会場の広さと予算の問題から、参加負担金をいただきホテルで食事会を実施してきたが、その食事内容が負担金

ではまかなえない点などの改善を図り、平成 30 年度は、記念品贈呈式として千倉保健センターを会場に実施した。贈呈式では記念品を贈呈するとともに、代表の 2 組のご夫婦から結婚生活 50 年を振り返りエピソードやご苦労された話をしていただき、会場を盛り上げていただいた。終始和やかな雰囲気の中で、記念写真撮影やお祝いに寄せた舞踊を楽しんでいた。

高齢者肖像画贈呈事業については、白寿のお祝いとして肖像画を贈った。大変喜ばれている事業ではあるが、費用対効果の問題や、また、市も同様の敬老品を贈呈していることから事業検討を行った結果、平成 30 年度をもって終了とする。

②福祉団体支援

福祉団体の事務局として市福祉団体(5)、各支部福祉団体(21)の自主運営の促進と団体の事務支援・連絡調整等を行った。

福祉団体名	会議	研修会	事業
南房総市民生児童委員協議会	10 回	8 回	6 回
南房総市老人クラブ連合会	11 回	1 回	4 回
南房総市遺族会	5 回	2 回	6 回
南房総市ひとり親福祉会	1 回	1 回	6 回
南房総市心身障害者(児)福祉会	5 回	3 回	5 回

【事業評価】

今年度も各団体の事務局として団体の支援を行った。現状の支援内容や回数などは大きな変化はないが、事務局としては各団体の自主運営が図られるよう支援に努めた。

現状の課題は、資料作り、複雑な申請、報告事務などは未だにサポートが必要な状況である。また、各団体の会員減少も大きな課題の一つである。

今後も課題を解決するとともに、団体運営を工夫し会員の増員を目指し支援を行っていく。

③福祉施設の運営(公益事業) 事業費:6,397,951 円

ちくら介護予防センターゆらり(浴場等)の指定管理委託を受け、施設利用者へのサービスの充実を図った。

★ちくら介護予防センターゆらり…延べ利用件数 (単位:件)

	28年度	29年度	30年度	前年比較
利 用 者 数	9,654	8,578	8,078	△500
施設利用件数	613	432	460	28

【事業評価】

利用者数は年々減少しており、今年度の利用者は前年度と比較し 500 人減少となっている。ただし、施設利用件数は増加した。

平成 30 年度も、より多くの利用者の方々が快適に過ごせるよう室内の環境整備に努め、地域の方々の憩いの場・交流の場の充実を図った。

④法律相談事業 事業費:383,736 円

千葉県弁護士会と千葉県司法書士会館山支部に委託し、市内7地区において、法律問題解決の糸口をつかむため、弁護士・司法書士による法律に関する専門的な相談を無料で受付け、地域の方々が安定した生活を送れるよう支援した。

★開設実績

内 容（延べ数）	28 年度	29 年度	30 年度	前年比較
開設日数	12 日	12 日	12 日	－
相談員数	12 人	12 人	12 人	－
相談件数	69 件	61 件	53 件	△8

★内容別件数

	内 容	件 数
1	不動産(土地・境界・家屋・墓地・その他所有物)	12
2	相続(遺言・遺産等)	15
3	金銭(借金・貸した金額の請求・家賃滞納・カード関係)	8
4	離婚・再婚	6
5	家族・親族	2
6	法律・規約・規則等各種	1
7	各種契約関係	1
8	成年後見制度関係	1
9	財産関係	1
10	養子縁組	1
11	その他	5
合 計		53

★開催場所

開催月日	開催場所	担当相談員	
4 月 26 日	ちくら介護予防センターゆらり	弁 護 士	本吉雅尋
5 月 24 日	和田地域福祉センターやすらぎ	司法書士	小林裕明
6 月 28 日	とみうら元気倶楽部	弁 護 士	前野加奈
7 月 26 日	白浜コミュニティセンター	司法書士	山崎勝弘
8 月 23 日	富山ふれあいコミュニティセンター	弁 護 士	村松浩二
9 月 27 日	ちくら介護予防センターゆらり	司法書士	酒井敏行
10 月 25 日	三芳保健福祉センター	弁 護 士	金澤佳弘
11 月 22 日	白浜コミュニティセンター	弁 護 士	渡邊秀孝
12 月 20 日	とみうら元気倶楽部	司法書士	鈴木健三
1 月 24 日	丸山公民館	弁 護 士	矢野智之
2 月 28 日	三芳保健福祉センター	司法書士	江澤正志
3 月 20 日	和田地域福祉センターやすらぎ	弁 護 士	塚本秀夫

【事業評価】

法律相談は、利用者からの相談者アンケートでは「満足」との回答が多く、近場で開設していることもあり、住民にとっては身近な法律の相談窓口として喜ばれている。一方で、年々利用者の人数が減少している傾向にあり事業検討を行った結果、利便性や周知の問題などの点が挙げられた。そこで、相談内容の傾向から司法書士で対応できるケースも多く、至急な相談は弁護士会他の専門窓口へ紹介することができるため、費用対効果を考慮し、次年度は司法書士のための相談を継続することとした。

⑤応急援護資金交付事業(一部市補助) 事業費 450,000 円

火災、風水害等の被災者に見舞金をおくり、被災者の当面の経済的負担を軽減し少しでも早い日常生活が送れるよう支援を行った。

★資金交付実績

交付内容	地 区	発生月
半壊	千倉	10 月
全焼	千倉	12 月
全焼	和田	1 月
全焼	白浜	1 月
半焼	白浜	1 月
半焼	千倉	2 月
合 計	6 件	450,000 円

【事業評価】

平成 30 年度は、火災による件数が増加した。関係部署と連携を図り、被災者のより早い生活の立て直しへの支援に努めた。

⑥ひとり親家庭支援事業(新規事業) 事業費: 231,512 円

新たに民間アパート等に居住しようとするひとり親家庭等に対し、経済的負担軽減を図り自立した生活が送れるよう、入居支度金及び家賃の一部を補助する助成金を交付した。

※入居支度金 30,000 円 家賃助成金上限 10,000 円×12 か月 (年 4 回に分けて給付)

★助成金交付実績 助成金交付世帯数・・・4 世帯

【事業評価】

本事業は、平成 30 年度からの新規事業としてスタートした。近年増加しているひとり親世帯への支援は、新たなニーズへの取り組みとなった。相談者の面談を行うと、子育てをしながら生計を維持していくことの大変さが伺え、自立へ向けた支援としてはこの事業は大きな役割がある。一方で個別世帯への助成ということもあり、きめ細かなアセスメントと市からの情報提供及び連携を図りながら支援に努めた。

(3) 広報啓発事業

① 広報啓発

(1) 広報紙の発行 事業費: 709,219 円

福祉情報の提供と地域福祉をよりご理解いただくため、広報紙「てんだあ」を発行した。
多くの住民に福祉情報が提供されるよう、わかりやすく親しみやすい紙面作りに努めた。

★発行部数

広報紙「てんだあ」	発行部数
45号発行(31年8月発行)	15,600 部
46号発行(31年12月発行)	15,220 部
47号発行(31年4月発行)	15,220 部
年間発行部数	46,040 部

(2) ホームページの開設と更新 事業費: 90,612 円

社会福祉協議会の組織、事業等の紹介や福祉情報を提供するためのホームページを公開した。また、ツイッターやフェイスブックによりリアルタイムでの情報を提供した。

南房総市社会福祉協議会 ホームページアドレス

URL: <http://www.shakyo-minamiboso.or.jp/>

【事業評価】

広報紙の発行は、平成 30 年度から年 3 回の発行とした。記事については、「てんだあ」の情報が事業の利用へ直接結び付くように早目の情報が掲載できるよう努めた。また、ホームページ・ツイッター・フェイスブックでの情報掲載を行い、タイムリーな情報提供を行った。

② 社会福祉大会 事業費: 509,008 円

地域住民の方々が一堂に会し、今後の福祉活動の方針を位置づけるとともに、多年にわたり社会福祉の発展に寄与された方々を表彰する場とした。また、小中学生による福祉作文の発表や募金箱コンクールの表彰を実施し、子どもから高齢者までより幅広く多くの方々に参加していただく社会福祉大会とした。

開催日	内 容	開催 場所	参加 者数
11月3日	<p>○式典 福祉功労者の表彰等</p> <p>★千葉県社会福祉協議会長表彰の紹介 民生委員・児童委員功労者(1名) ・込山恵子 優良地区社会福祉協議会 ・北三原地区社会福祉協議会</p> <p>★千葉県社会福祉協議会長感謝状の紹介(1名) ・三芳 もみじ会 会長 石野正子</p> <p>★千葉県共同募金会長感謝状の紹介(7地区) ・富浦 丹生区 富山 小浦区・三芳 海老敷区 ・白浜 西横渚区・千倉 南千倉区・丸山 珠師ヶ谷区 ・和田 中区</p> <p>① 南房総市社会福祉協議会長表彰 地域福祉活動功労者(14名) ・明石典子・石井久隆・菅沼弘夫・網代 裕・羽田百合子 ・辻 和夫・今須 昇・伊勢田照子・安田淳一・堀江弘美 ・鈴木和枝・加瀬和枝・佐久間喜代子・鈴木登志子 地域福祉活動功労団体(3団体) ・市部ボランティアチーム・平館むつみ会 ・ふれあい喫茶「なごみ」 南房総市社会福祉協議会長感謝状(1団体) ・南総歌謡連盟</p> <p>② 南房総市社会福祉協議会福祉作文コンクール表彰状 ・最優秀賞2名・優秀賞4名・優良賞6名</p> <p>③ 共同募金会南房総市支会募金箱コンクール表彰状 ・金賞2点・銀賞2点・銅賞2点 ・アイデア賞2点・デザイン賞2点</p> <p>○福祉作文の発表(最優秀賞2名) ○記念講演 講師 NPO 法人つどい場さくらちゃん 理事長 丸尾多重子氏 「パワフルおばちゃんのつどい場づくり奮闘記」 ～いろいろな人とつながると人生楽しくなる～</p>	千倉保健センター	約200人

【事業評価】

平成 29 年度までは、市ボランティア連絡協議会主催のボランティアまつりと同時開催で行われた社会福祉大会であったが、平成 30 年は単独開催とし実施した。

大会ではテーマを「さあ広げよう！つながりから始まるささえあいのまちづくり」とし、世代や分野を超えて、住民相互がたすけあいささえあう福祉のまちづくりの実現を目指し、多くの方々に参加していただく大会とした。また、福祉功労者の方々の表彰を行い、その尽力された功績を讃えた。

記念講演は、今、南房総市においても推進している「つどい場づくり」のタイムリーな内容であったので、参加された方々には大変好評であった。

(4)福祉活動支援事業

①福祉教育の推進

小・中学校、高校の児童生徒に幼いころから思いやりのある優しい心を育んでもらうことを目的に、福祉教育を推進する学校へ助成金を交付した。

また、福祉への理解を深めてもらうために福祉作文を募集した。

★福祉教育推進助成金交付校 事業費:450,000 円

小学校名			中学校名		高校名
富浦小学校	富山小学校	三芳小学校	富浦中学校	富山中学校	安房拓心 高校
白浜小学校	千倉小学校	南小学校	三芳中学校	白浜中学校	
和田小学校	南三原小学校		千倉中学校	嶺南中学校	
8 校			6 校		1 校

★福祉作文コンクール 事業費:56,741 円

市内の小中高校より362点の作文の応募があり、その中から優秀作品 12 点を選び、最優秀作品 2 点を社会福祉大会時にて発表した。

(敬称略)

	表 題	学校名	学年	氏 名
最優秀賞	ぼくのおじいちゃんとおばあちゃん	三芳小学校	3 年	池田智哉
	壁の先	嶺南中学校	3 年	水上姫波
優秀賞	みんな同じ人間	和田小学校	6 年	本間愛波
	私と地域	和田小学校	6 年	松本 和
	祖母との関わりの中で	富浦中学校	2 年	岩堀里緒
	高齢化社会の人権	富山中学校	3 年	井野百合乃
優良賞	暮らしの工夫	富山小学校	5 年	蛭田花菜
	おばあちゃんの暮らし	千倉小学校	4 年	相川穂乃花
	大好きな祖母	南小学校	6 年	川田敦也
	見直すこと	富山中学校	3 年	松坂愛未
	私たちにできること	千倉中学校	2 年	石井 凜
	色んな人の立場になって	千倉中学校	2 年	猪原脩伍

【事業評価】

福祉教育助成金については、学校からの実績報告をみると環境美化だけではなく、地域交流や防災講座などに有効に利用されているようであった。また福祉作文の応募は例年 11 月に実施していたが、社会福祉大会の日程を 11 月に変更したこともあり、6 月に募集依頼をしたため、昨年より 69 点減となった。

福祉の担い手となる児童生徒への取り組みとして、社協としてもいろいろな講座や事業の企画を行い、体験を通して福祉について感じたり知ることに関心をもってもらえる機会を作り、福祉教育を推進した。

②子育て活動支援（市委託） 事業費:5,437,945 円

子育て環境の充実支援のため、学童保育指導員の派遣を行った。

2 高齢者の在宅生活の支援

(1)在宅福祉支援事業

①お達者サロン支援事業（お達者サロン）（市補助） 事業費:689,750 円

参加される方が身近な場所で交流することで閉じこもりを予防し、利用者相互の交流を通して生きがいを見だし、元気に過ごしていただき介護予防の促進を図ることを目的として、ボランティアが運営のお達者サロンに助成金を交付し支援した。

★サロン開催状況

	29 年度	30 年度
サロン開催状況	20 ヶ所	22 ヶ所
利用者参加者数(人)	7,097	7,604
協力者数(人)	2,578	3,105

★助成金実績報告 13 団体・・・414,000 円

【事業評価】

平成 29 年度からの補助事業として 2 年が経過した。昨年度に比べるとサロンは 2 カ所増、また利用者、協力者の参加者数が大幅に増えている。介護予防の促進が図られる場として広がったことは、とても大きな成果である。サロンでは、住民だけではなく専門職なども参加し、福祉情報の発信や見守り、困りごとを共有するささえあい活動の場として機能している。

②ふれあいランチサービス事業(無料) 事業費:3,786,537 円

毎月 1 回、ボランティア、地区社協、民生児童委員等が手作り弁当を宅配し、単身高齢者（70 歳以上）と地域の方々とのふれあいを図り、健康・生活状況の安否確認等を行い在宅生活を支援した。

★地区別配食数 月平均配食数・・・791 食(29 年度 800 食 比較 9 食減)

地区名	延べ配食数
富 浦	686 食
富 山	790 食
三 芳	543 食
白 浜	1,688 食
千 倉	3,755 食
丸 山	893 食
和 田	1,138 食
合 計	9,493 食

協力ボランティア		
調理	1,501 人	月平均 125 人
配食	1,534 人	月平均 128 人

【事業評価】

今年度も民生委員をはじめ地域のボランティアの方々のご協力により、本事業を実施した。訪問活動を通して安否確認を行っているが、多くの方々の理解を得て実施されていることは大きな成果である。一方で、検討課題としては「食」を扱う点であり、事故なく安全にサービスが提供できるよう徹底した衛生管理が必要であり、安房健康福祉センターの指導により、ボランティアの検便検査を実施した。

また、もう一つの課題は作り手であるボランティアの高齢化が問題となっていたため、「今後継続しこの事業ができるか等」ボランティアの意向を確認するため、今年度調理ボランティアに向けたアンケートを実施した。その結果、ふれあいランチサービスは、「ささえあいの活動の場となり生きがいを感じている」という意見が多かった。

③紙おむつ給付事業

在宅で介護している家庭の負担を軽減するため、年４回紙おむつを無料配付し、在宅介護を支援した。

(1) 紙おむつ給付事業 事業費：2,072,349 円

要介護３・４・５、重度障害者、療育手帳、精神障害者保健手帳を所持し、在宅で日常生活のほとんどに介護を必要とされる方を対象に、年４回１回あたり介護度３は２,５００円相当、介護度４・５は５,０００円相当の紙おむつを支給した。

★配布実績

(単位：人数)

区 分	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
身 障	144	137	141	4
要介護 3	102	102	117	15
要介護 4	186	127	140	13
要介護 5	148	131	85	△46
合 計	580	497	483	△14

【事業評価】

本事業の目的や効果は、家族の経済的負担を軽減し、在宅生活の安定と継続を図るため実施している事業であるが、希望利用者の推移は年々減少傾向にある。

平成 29 年度に利用者へアンケートを実施し、アンケートでは対象者からは「大変助かる」という声もいただいていたが、紙パンツ支給や自分にあった紙おむつの給付を望む声も多く、また窓口による現物給付は、ご高齢のご家族にとっては負担となっていることから、平成 30 年度に事業検討をした結果、令和元年度からは、利用者の利便性を考慮しニーズにあわせ自ら希望する紙おむつ等の品物を選べるよう、また、市内の身近なお店で受け取りができるよう給付方法を給付券方式に変更し、紙おむつの給付を実施することとした。

(2) 高齢者介護用品支給事業(市受託) 事業費：2,950,551 円

要介護 4・5 の高齢者で前年度、非課税世帯の方を対象に、年 4 回 1 回あたり 25,000 円相当の紙おむつ代を助成した。

★配布実績

(3月末給付実人数)

区 分	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
要介護4	27	30	27	△3
要介護5	13	13	18	5
合 計	40	43	45	2

【事業評価】

紙おむつ給付事業の申請者が減少する中、本事業の申請者は年々増加傾向にある。ただし、前年度の非課税世帯が対象となるため、対象外となる場合が多い現状であった。その場合は、今年度においても紙おむつ給付事業で支給がされるよう申請の案内を行い、ご家族の介護負担軽減を図った。

④交通空白地有償運送(旧過疎地有償運送)ボランティア移送サービス事業

事業費： 収入総額:2,920,555 円 支出総額 2,735,353 円 当期残額:185,238 円

会員制の移送サービスとして、高齢者・障害者等の移動困難者に対して、運転協力者(ボランティア)が通院、買い物等の在宅生活を支援した。

(1)会員登録数・・201 人

(単位:人)

	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
利用会員数	133	125	137	12
協力会員数	63	66	64	△2

(2)ボランティア移送サービス利用実績・・1,803 件

(単位:人)

内 容	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
延べ利用者数	2,007	1,494	1,803	309
延べ協力者数	441	410	404	△6

★サービス内容

(単位:件)

内 容	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
病 院	1,342	1,007	1,207	200
公共機関	139	141	162	20
買 い 物	460	303	402	99
そ の 他	66	43	32	△11
合 計	2,007	1,494	1,803	309

(3)運転協力者講習会

輸送の安全確保や、ボランティアの運転技術を維持するため講習会を開催した。

★講習会開催状況

開催月日	内 容	参加者数
11 月 6 日	移送サービス運転協力者講習会(内職 1 名)	3 人

1 月 21 日	移送サービス運転協力者フォローアップ講習会	20 人
2 月 5 日	移送サービス運転協力者フォローアップ講習会	11 人
合 計		34 人

【事業評価】

ボランティア移送サービスの年間延べ利用者数は、平成 30 年度 309 人と大幅に増となった。

安全・安心なサービスの提供ができるよう安全運転講習を実施した。また、担い手となるボランティア増員に努めた。

公共交通の面では、白浜地区のバス路線が廃止になり問題となった。今後、過疎化・高齢化が進み更に公共交通の縮小が懸念される南房総市は、ますます高齢者や障がい者の移動の問題は重要な課題の一つとなる。本事業は、その点において重要不可欠な事業と考えられる。

⑤生活援助サービス事業(みなみんおたすけサービス)

事業費:収入総額:54,000 円 支出総額:44,650 円 当期残額:96,700 円

南房総市のお住いの方々のささえあい活動を目的とした会員制の生活援助サービスで、高齢者・障害者等に対して、協力者(ボランティア)が日常の家事を手伝い在宅生活の支援するサービスに取り組んだ。

(1)会員登録数・・・ 19 人

	28 年度	29 年度	30 年度
利用会員数	3 人	5 人	6 人
協力会員数	3 人	11 人	13 人

(単位:件数)

内 容	29 年度	30 年度	前年度比較
話し相手	7	27	20
衣類の洗濯	0	3	3
住居の清掃	7	23	16
買物代行	5	29	24
食事の支度	2	3	1
そ の 他	9	16	7
合 計	30	101	71

【事業評価】

この事業は 3 年目となるが、利用者は 1 名しか増えなかったが、一人一人のサービス支援は充実が図られた。利用者が少ない要因は、昨年同様、介護保険ではまだ要支援者については「みなし」として、サービス利用が継続されているためかと思われる。

⑥福祉車両・福祉機器貸出事業

(1)福祉車両の貸出 事業費:1,241,117 円

車椅子仕様車両を無料で貸出し、病院の送迎や外出等の在宅介護を支援した。

移送サービスと合わせて車両整備を行い、安全な運営に努めた。

※運転手は利用される方が手配しガソリン代は実費負担。

★年間貸出実績

(単位:件数)

	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
福祉車両貸出件数	915	752	789	37
うち移送サービス件数	695	544	575	31

(2)福祉機器の貸出

車椅子を無料で貸出し、家族の介護負担を軽減することで在宅介護を支援した。

★年間貸出実績

(単位:件数)

福祉機器名	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
車椅子	87	90	111	21
ベッド	8	5	—	△5
その他	0	0	1	1
合 計	95	95	112	17

【事業評価】

福祉車両、福祉機器の貸出事業は両事業とも増となっている。ベッドの貸出は平成 30 年度から安全なサービスの提供ができない理由から廃止したが、その点については特に苦情や問題はなかった。

福祉車両の貸出は、安全なサービスの提供ができるよう新規の福祉車両を配置するとともに、また福祉機器の貸出は、リサイクルボランティアの協力をいただき、車椅子の修理やメンテナンスを行い貸出した。介護保険サービスのつなぎ事業として、住民には喜ばれている事業である。

⑦日常生活自立支援事業(県社協受託) 事業費:1,301,000 円

高齢者や障がいのある方がその人らしく地域で過ごすために、生活支援員が日常生活における財産の管理や福祉サービスの利用援助をサポートし、安定した生活を支援した。

★年間実績

	28 年度	29 年度	30 年度
新規相談件数	3 人	8 人	5 人
新規契約件数	3 人	1 人	5 人
解約件数	2 人	5 人	3 人
契約件数(3月末)	12 人	8 人	11 人
現任支援員数	8 人	6 人	9 人

【事業評価】

財産管理をお手伝いするという責任のある事業なので、通帳や資料の確認、管理機能のチェック体制を重視し本事業を行った。

また近年、成年後見制度の利用促進が求められているが、平成 29 年度から 3 市 1 町で市民

後見人養成講座を実施してきており、2 年目を迎えた。その中から 6 人の方が日常生活自立支援事業の生活支援員として登録していただき、現在 2 名の方が支援を行っている。

⑧生活困窮者自立支援事業(市受託) 事業費:14,276,697 円

生活困難者の抱えている課題を分析し、そのニーズを把握、そして、個々のニーズに応じた自立支援計画を作成し、関係機関と連携調整を図りながら就労等各種支援を継続的に行い、自立に向け支援した。

★年間実績

	28 年度	29 年度	30 年度
新規相談件数	41 件	43 件	55 件
プラン作成件数 (再プラン含む)	37 件	35 件	27 件
終結件数	9 件	13 件	9 件
支援継続件数	15 件	24 件	28 件

【事業評価】

本事業の利用相談については、年々、複雑・困難なケースが多くなっている。「生活保護にならない」また「食い止めるため」のセーフティーネットとして、今年度も支援員が生活課題を抱える方々の家族に寄り添いながら継続的に対応した。また、家計相談と併せて家計内容を見直し、生活再建に向け自立支援に努めた。

専門員も経験を重ね困難なケースに日々支援しており、専門機関と連携し個々のニーズにあった支援体制を築き、社協の役割でもある福祉制度のはざまの方々への支援に努めた。

⑨福祉機器リサイクル事業 事業費:322,528 円

各家庭で不要になった車椅子・歩行器等を受け入れ整備し、必要とする方に提供することで資源の有効活用を図った。

★年間譲受・譲渡実績

(単位:件)

福祉機器名	28 年度	29 年度			30 年度		
	在庫数	譲受数	譲渡数	在庫数	譲受数	譲渡数	在庫数
車椅子	11 (2 台廃棄)	2	4	8 (1 台廃棄)	15 (センターから 12 台)	7	11 (4 台廃棄)
歩行器 (シルバーカー)	2 (1 台廃棄)	2	3	1	4	1	3
杖	19	1	5	15	0	3	12

【事業評価】

リサイクルボランティア 2 名が、車椅子等福祉機器を毎月1回メンテナンス、修理を行った。リサイクル事業では、特に車椅子の利用が多かった。住民の方々には大変好評である。本事業は、

福祉機器の貸出事業と同様に、介護保険サービスのつなぎの支援として大変喜ばれている。

3 在宅生活を支援する資金の貸付

(1) 資金貸付事業

生活保護申請者等の低所得者世帯や高齢者世帯、障害者世帯に資金を貸し付け、民生児童委員と連携し自立更正並びに生活の支援を行った。

①福祉資金貸付事業(市社協) 事業費:0 円

(単位:円)

	件数	貸付額	償還額	償還未済額
30 年度貸付	0	0	0	0
徴収不能金	0	0	0	0

	件数	貸付額	償還済額	償還免除額
償還免除	0	0	0	0

【事業評価】

今年度も昨年度に引き続き、市社協としての貸付はなかった。やはりただ単に貸付がなかっただけではなく、その要因を考えることが必要。住民の方々が利用しやすいようまた周知し、再度要綱の見直しを図る。

②生活福祉資金・老障資金貸付事業(県社協) 事業費:261,900 円

★生活福祉資金貸付事業・貸付件数 11 件 貸付額 605,800 円

【事業評価】

今年度は、主に生活困窮者自立相談支援事業の利用者へ生活再建の資金として、緊急小口資金を貸付し自立した生活に向けて支援した。

4 ボランティア活動の支援

(1) ボランティア活動支援事業

事業費:2,503,118 円

①ボランティア連絡協議会の運営

市内ボランティア団体の相互交流や親睦並びにボランティア活動を通じて、地域福祉の向上を図るとともに、ボランティア活動の活性化を図るため、ボランティア連絡協議会を組織し運営の支援を行った。また、ボランティア保険の受付などにより活動を支援した。ボランティアまつりの企画開催や各分野のボランティア養成講座の開催など実施し、担い手となるボランティアの育成・養成に努めた。

②ボランティア・市民センターの整備

ボランティア登録団体数・・73 団体 （団体・個人登録者 延べ 1,258 人）

ボランティアコーディネーターの配置 1 名

③ボランティア養成講座

ボランティア活動を始めたい方、またボランティア活動に関心を持つ方を対象に専門的知識の習得に努めた。

★ボランティア養成講座開催状況

講座名	開催日	内 容	参加者数
生活支援担い手養成講座	7 月 27 日	基礎講座 「私たちが今地域でできること」 ・社協ささえあい活動について ・高齢者の特徴と対 ・対人援助の心構えと接遇 (グループワーク) 講師:千葉県介護福祉士会	42 人
生活支援担い手養成フォローアップ講座	11 月 9 日	フォローアップ講座 ・認知症サポーター養成講座 講師:七浦診療所 田中かつら院長 ・「楽しく身体を動かそう! 遊び理テーショ ン」 講師:リハリハ千倉 理学療法士 大橋 玲氏	37 人
生活支援担い手養成フォローアップ講座	2 月 27 日	フォローアップ講座 ・缶詰が健康でおいしいごちそうに 大変身 ・栄養バランスや低栄養について ・調理実習、試食 講師:南房総市健康支援課 管理栄養士 保健師	9 人
給食ボランティア	11 月 28 日 11 月 30 日	・食品衛生管理について 講師:安房健康福祉センター 小林智史氏 石井秀雄氏 ※南房総市内 2 会場において実施 ※調理実習は、市ボランティア連絡協議 会にて企画を検討し、実施した。	159 人
福祉体験	6 月 25 日	・富山小 高齢者疑似体験	182 人
	10 月 29 日	・富山小 手話体験	
	12 月 14 日	・富山中 手話体験	
	12 月 18 日	・白浜中 車椅子・高齢者疑似体験	
	1 月 18 日	・白浜中 手話体験	

災害 ボランティア 養成講座	8 月 19 日	「みんなで考えよう！災害について」 ・防災シミュレーションゲーム クロスロード 講師：南房総市社会福祉協議会 ・災害時の食事について ・新聞紙で皿づくり、ハゼックスの紹介 ・オイルランプ、ブルーシートテントづくり 講師：南房総市社協災害ボランティア 赤十字防災ボランティア 日本赤十字奉仕団	74 人
災害 ボランティアセ ンター立ち上げ 訓練	2 月 23 日	・災害ボランティアセンター立ち上げ訓練 ①災害ボランティアセンターについて 災害時の支援体制や職員初動体制 について、支援活動マニュアル確認 ②ニーズ班 マニュアル変更の報告 ③グループワークと模擬訓練 ボランティア受付班の設置・検証	17 人
サマーボラン ティアスクール	8 月 22 日	・福祉ボランティア講座 ボランティア活動について（講義） 講師：南房総市社会福祉協議会 介護職員の話 車椅子を実際に体験してみよう！ 講師：ケアハウスリブ丸山 管理者 鈴木弘枝氏	20 人
	8 月 23 日	・施設体験 市内 7 カ所の施設でボランティア体験	

④災害ボランティア活動

災害ボランティア活動は、今年度も12人の災害ボランティアと一緒に、養成講座や災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練の企画運営を行った。特に災害ボランティアセンター立ち上げ訓練では、災害時に「災害ボランティアセンター」の運営スタッフとして活動していくため、演習を行いながら「運営マニュアル」を検証し、整備した。この点は大きな成果であり、次年度も継続して進めていく。

⑤ボランティア助成事業

ボランティアセンターに登録している団体のボランティア活動の活性化を図るため、団体の運営資金の一部を助成した。

★助成金交付実績

件 数	合 計	ボランティア団体(グループ)助成金内容
55 団体	1,640,000 円	80,000 円 × 1 団体 = 80,000 円 (市ボラ連)
		40,000 円 × 5 団体 = 200,000 円
		30,000 円 × 38 団体 = 1,140,000 円
		20,000 円 × 11 団体 = 220,000 円

★助成金交付内容

市ボランティア連絡協議会協	80,000 円	ボランティア連絡協議会各支部	30,000 円
会員 10 名未満	20,000 円		
会員 10 名以上 30 名未満	30,000 円		
会員 30 名以上	40,000 円		

【事業評価】

ボランティアスクールは、千葉県介護人材確保対策事業の補助金を利用し実施した。介護・福祉の現場では人材不足が問題となっており、時代を担う中学生に福祉について関心をもってもらう場となったと思われる。

災害ボランティア養成講座では、一般の方々へ向けた養成講座として開催したが、夏休みに開催したこともあり、親子での参加も見られた。災害時には子ども達もボランティアとして大きな力になるので、参加していただき関心をもってもらったことは次の活動に向かう足掛かりとなった。また、今回は赤十字防災ボランティアや日赤奉仕団など他団体と連携し講座を開催した。他団体との連携は災害時には必須となり、一緒に行えたことは課題もあったが良かった点でもある。

各講座を通しての課題は、参加者が皆同じであるという点であったので、ボランティアが楽しく参加し日ごろのボランティア活動に生かせるよう、容を更に充実させた。そしてボランティア＝ささえあい活動の担い手を増やしていくことは、社協にとっても重要な課題であるので、その点を強化し取り組んだ。

5 共同募金の推進

(1) 共同募金事業

全国一斉に行われる共同募金運動は、10月1日から12月31日まで実施され区長を始め地域の方々のご協力をいただき活動が展開された。

① 赤い羽根共同募金運動

区の役員をはじめ地域の皆様のご協力により実施していただいた。

皆様から寄せられた募金は、社会福祉大会・結婚 50 周年・福祉機器リサイクル・福祉育成事業・ふれあい交流事業・広報紙の発行など地域福祉を推進するために活用した。

★募金実績

(単位:円)

	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
戸別募金	6,521,139	6,383,893	6,304,102	△79,791
法人募金	0	0	3,000	3,000
学校募金	145,901	95,013	94,871	△142
職域募金	15,854	16,139	15,455	△684
個人募金	0	0	1,000	1,000

そ の 他	97,913	85,269	106,761	21,492
合 計	6,773,090	6,580,314	6,525,189	△55,125

★募金箱コンクール 事業費:94,893 円

市内の小学生1年生～6年生を対象に共同募金運動に関心を持ち、理解を深めてもらうため、募金箱コンクールを実施した。99点の応募があり、優秀作品10点を公共施設に設置し、募金箱として活用した。

	低学年の部(1年～3年)			高学年の部(4年～6年)		
	学校名	学年	氏 名	学校名	学年	氏 名
金賞	南小学校	1年	平井翔大	富浦小学校	4年	岡本真結
銀賞	白浜小学校	3年	小川ひかり	富山小学校	6年	柴田美玲
銅賞	千倉小学校	1年	石井海璃	南三原小学校	5年	池田海菜
アイデア賞	南小学校	2年	鈴木結子	和田小学校	5年	島津和花
デザイン賞	富山小学校	3年	若王子結奈	富山小学校	5年	蛭田花菜

★みなみんふれあい映画上映会の開催 事業費:256,523 円

福祉育成を目的に、マスコットキャラクター「みなみん」とふれあいながら、小さなお子様や障がいのある方々、またご家族で参加していただける映画の上映会を開催した。

平成30年度は、ボランティアまつりが単独開催となったため、みなみんふれあい映画上映会を地域ふれあい交流事業に位置付け、ボランティアまつりと同時開催し実施した。

開催日	タイトル	参加対象者	参加者数
9月22日	ペット	市民	84名

②歳末たすけあい運動

12月1日から31日まで行われる運動では、赤い羽根募金同様、戸別募金をはじめ市内中学生や民生委員の参加により、道の駅や道楽園、スーパーおどや3か所で街頭募金を実施し、多くの皆様のご協力をいただいた。寄せられた募金は、スローガンである「あったかいお正月」を地域で迎えられるよう、民生委員を通じて市内の支援を必要としている方々へお届けした。

★募金実績

(単位:円)

	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
戸別募金	6,492,138	6,401,240	6,299,002	△102,238
街頭募金	70,601	98,875	77,647	△21,228
法人募金	28,391	10,000	20,000	10,000
職域募金	0	0	0	0
個人募金	31,759	30,791	20,500	△10,291
そ の 他	53,791	10,014	8,012	△2,002
合 計	6,676,680	6,550,920	6,425,161	△125,759

★歳末たすけあい配分一覧

(単位:世帯)

分世帯(者)	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
生活困難な支援世帯	22	24	21	△3
独 居 高 齢 者	244	228	222	△6
高 齢 者 の み 世 帯	44	39	30	△9
寝 た き り 高 齢 者	32	22	17	△5
寝 た き り 障 害 者	9	9	10	1
重度心身障害者(児)	162	148	136	△12
母 子 家 庭	58	51	54	3
父 子 家 庭	6	3	2	△1
児 童 養 護 施 設	1	1	1	0
特別養護老人ホーム	7	7	7	0
老 人 保 健 施 設	3	3	3	0
知的(精神)障害者施設	1	3	3	2
グ ル ー プ ホ ー ム	6	6	6	0
小規模多機能施設	3	3	3	0
小規模特別養護老人ホーム	1	1	1	0
グループホーム(障害者施設)	—	5	7	2
合 計	599	553	523	△30
	3,445,000 円	5,940,000 円	5,660,000 円	280,000 円

③災害義援金募集 義援金総額 117,432 円

【事業評価】

年々募金額は減少傾向にあるが、今年度も募金活動への理解を図り、募金の協力をいただくため、どのように活用されているか本会独自のチラシを作成し、広報に努め運動を展開した。

6 居宅介護の支援

(1) 介護保険事業

①居宅介護支援事業（ケアマネージャー1名）

事業費：収入総額：4,362,190 円 支出総額：3,856,090 円 当期残額：5,489,085 円

介護保険法に基づき、要介護・要支援認定者にケアマネージャーによるケアプラン作成や、介護保険施設、医療機関との連絡調整、また介護に関する相談受付支援などを行い、在宅介護を支援した。

★ケアプラン作成

（単位：件）

	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
要 介 護	373	342	313	△29
介護予防	33	83	122	39
合 計	406	425	435	10

②訪問介護事業（ホームヘルパー4名）（常勤1名非常勤3名）

事業費：収入総額：8,219,752 円 支出総額：7,699,570 円 当期残額：28,292,983 円

介護保険法に基づき、要介護者へホームヘルパーによる訪問介護を提供し、在宅生活の支援をした。

★高齢者の訪問介護

		28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
利用者数(人)		376	386	383	3
訪問 介護 内訳 (件)	身体介護	821	787	496	△291
	生活援助	901	807	758	△49
	身体生活	0	0	13	13
	乗降介助	1,233	1,210	767	△443
	介護予防(人)	109	110	99	△11
	合 計	3,064	2,914	2,133	△781

(2) 障害福祉サービス事業

①居宅介護支援事業

障害者総合支援法に基づき、ホームヘルパーによる訪問介護を提供し、在宅生活を支援した。

★障害者の居宅介護

	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
利用者数(人)	57	50	47	△3
訪問回数(回)	348	319	345	26

(3)介護保険外事業

①高齢者外出支援事業(一部市補助)(登録者数 85 人)

単身高齢者及び高齢者世帯、介護保険該当者をホームヘルパーが通院や買い物等の支援を行った。

★外出支援件数

		28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
自 立	利用者数(人)	404	308	270	△38
	利用回数(回)	689	540	470	△70
要 介 護	利用者数(人)	310	307	281	△26
	利用回数(回)	679	651	441	△210
合 計	利用者数(人)	714	615	551	△64
	利用回数(回)	1,368	1,191	911	△280

【事業評価】

介護保険制度の改正に伴い、要支援者の対応が求められる中、社協が実施する居宅介護事業としての役割を再確認し、福祉サービスが利用できない方など、福祉制度のはざまの方々への支援や、他の事業者が行わない方々への支援を中心に実施した。

7 社会福祉協議会の活動基盤整備

①会員募集の加入状況

(単位:件)

	28 年度	29 年度	30 年度	前年度比較
一般会員 (市内全世帯)	12,825	12,999	12,801	△198
賛助会員 (活動に賛同される個人など)	403	464	454	△10
特別・施設団体会員 (福祉施設・団体など)	156	142	140	△2

②福祉基金積立額

基金の種類	積立額
福祉振興基金	93,910,214 円
災害対策基金	11,830,867 円
ボランティア基金	1,503,253 円
合 計	107,244,334 円

③地域福祉計画・地域福祉活動計画策定の経過

NO	日にち	内 容	場 所
1	30.9.10	地区福祉計画・活動計画策定支援業者契約	三芳分庁舎
2	30.10.9	第1回作業部会	市役所本庁本館
3	30.10.18	第1回策定委員会	三芳保健福祉センター
4	30.11.19	市民アンケート	南房総市全域
5	31..2.1	第2回作業部会	市役所本庁本館
6	31.3.4	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	富山ふれあいコミュニティセンター
7	31.3.8	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	千倉保健センター
8	31.3.8	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	丸山公民館
9	31.3.11	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	白浜コミュニティセンター
10	31.3.11	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	和田コミュニティセンター
11	31.3.18	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	三芳保健福祉センター
12	31.3.18	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	富浦元気倶楽部
13	31.3.20	老人クラブ当事者団体ヒアリング	千倉保健センター
14	31.3.22	団体意見交換会	丸山公民館
15	31.4.19	身障福祉会当事者団体ヒアリング	富山魚赤

平成30年度事業報告には、社会福祉法第45条の27第2項に規定する附属明細書については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成31年5月

社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

